

Investor Day (2026年6月2日) 質疑応答集

Q: LTAに関する質問：LTAの議論の前提としているビット成長のイメージを教えてください。LTAを通じて成長の確度がより高く見えている市場を教えてください。キオクシアはLTAによって出荷物量のどの程度をカバーしようと計画していますか。市場が変動した際、LTAはどの程度の実行性を持つように設計されているのですか。

A: Bit成長の前提としては、CY25-CY28で年平均成長率(CAGR)22%を予測しています。

LTAについては、現在データセンター・エンタープライズ顧客を中心に議論をしており、AI推論市場の強い需要見通しが背景にあると認識しています。CY29以降についても、LTA締結を希望するデータセンター・エンタープライズ顧客が数社いることを踏まえると、その市場の成長性がより可視化されてきていると考えています。

28年以降においては、製品や仕様に対する顧客のニーズが変わってくるのが予想される中、現時点は概ねCY28の出荷物量に対して50%程度をLTAでカバーし、ある程度の柔軟性を確保することを考えています。時間の経過とともに、市場状況や顧客との会話によっては、カバー比率を上げることも考えています。また、価格や期間などの条件を慎重に検討しながら、28年度以降の投資判断におけるリスク低減に取り組んでいます。

尚、契約の詳細については、顧客との守秘義務があるため、具体的な内容は差し控えます。

Q: (p28) AI推論向けSSD製品(CM/GP/LCシリーズ)について、それぞれの市場規模の将来見通しと競合優位性を教えてください。

A: すべてのシリーズでAI推論向けで急激な成長を継続すると考えています。

当社は、大容量ストレージのLCシリーズにおいては、最先端QLCチップを使用した製品でデータ量増加に対応します。KVキャッシュ等向けのCMシリーズも急激な成長が見込まれています。既にエンタープライズやハイパースケーラーの主要顧客に採用・認定されており、技術的ポテンシャルは高いと評価しています。GPシリーズについては特殊なNANDチップを開発しており、次世代製品も計画しております。

Q: (p16) 需給バランスはCY27まで供給がタイトとのことですが、KVキャッシュやコンテキストメモリー、Super High IOPS等の新しい需要がどの程度織り込まれていると考えますか。

A: 当社では需給バランスを複数の調査会社のデータや顧客との会話等を踏まえて予測しています。現在はCY27後半以降も需給バランスはタイト感が続く予想しており、市場価格も需給バランスを反映した推移となると考えており、急激な下落は見込んでいません。AI向けの需要に関して、引き続きマーケットの成長を見ていきます。

Q: Super High IOPS SSD における技術的リーダーシップの評価と、今後 1-2 年での大手顧客・エコシステムパートナーでの採用・収益インパクトについて教えてください。

A: Super High IOPS SSD に使用する NAND は XL-FLASH™ という SLC ベースの特殊チップで、現段階では当社独自の技術です。NVIDIA の仕様に対応した SSD を開発中で、年内にできるだけ早くサンプル提供し、評価いただく予定です。XL-FLASH™ は、BiCS FLASH™ のプロセス技術を基本的にはそのまま使用するため、BiCS FLASH™ の生産ラインを活用して製造できるため、市場状況を見ながら自由度を持って生産できる製品となっています。適正な付加価値を期待しており、それに見合ったアロケーションを増やしていく事も今後考えていきたいと思えます。

Q: データセンター向けの CAGR46% (CY25-CY28) の予想について、AI 推論需要の拡大を測る、先行指標となるものがあれば教えてください。

A: AI 推論向け市場は、現在成長が最も著しい分野であり、明確な指標をお伝えするのは難しい状況です。一方、例えば、当社の CM シリーズへの要求は、KV キャッシュ向けの需要を捉えたものと理解しており、どの製品にどのような需要見込みが発生するかが、一つの指標になると考えています。昨年度から今年度にかけて、要求の強さが明らかに変化しており、これは AI 推論、特に NVIDIA が提唱している新しいストレージ階層への需要が強くと影響していると理解しています。

Q: 次世代の第 10 世代 BiCS FLASH™ の量産化スケジュールを教えてください。

A: 今年夏にサンプル出荷を開始し、顧客での認定活動を経て、約 1 年後に市場状況を見極めながら量産開始を予定しています。

Q: 今後のキオクシアの出荷ビット成長のイメージと、その前提となる市場成長を教えてください。

A: 市場のビット成長率は、CY25-CY28 で 22%程度の CAGR を想定しています。四日市工場と北上工場の既存棟のスペースへ製造設備の投資をすることで GB 成長を見込んでいます。CY29 以降についても、市場規模や成長性を見極めた上で、規律ある投資を検討・実施していきます。

Q: 多くのメモリメーカーが DRAM・HBM に注力する中、北上工場のスペースと技術力を考慮すると、設備投資額をもう少し加速できるのではないのでしょうか。

A: 当社としては、従来通り、財務規律と成長投資のバランスを取る必要があると考えています。CY25-CY28 においては、22% CAGR の GB 成長を支えるために、年間 4,700 億円程度の投資を計画しています。

Q: 新棟建設についての方針をお聞かせください。

A: 現在、四日市工場第 7 製造棟と北上工場第 2 製造棟にはスペースがあり、当面はそのスペースを、CAGR 22% (CY25-CY28) の市場 GB 成長率を踏まえて活用していきます。その先には、新製造棟の計画を市場成長率に合うタイミングで検討していきます。現時点の計画では、CY29 までは既存製造棟で対応可能ですが、CY30 以降の生産に向け、適切なタイミングで新棟建設を進める必要があると考えています。

Q: 設備投資計画の具体的な内容を教えてください。28年度の生産能力は25年度の2倍程度になるというのでしょうか。

A: 26年度の設備投資は25年度の2,800億円から4,500億円に引き上げ、CAGR 22%のGB成長に継続的に対応できる準備を進め、27年度も同レベルの投資を継続します。内容としては、第8世代 BiCS FLASH™の増強、第10世代 BiCS FLASH™の生産、四日市工場第7製造棟・北上工場第2製造棟への投資が含まれます。

Q: 四日市工場と北上工場での増強ということですが、海外拠点の増強可能性はありますか。

A: 向こう5年程度では拡張性と規模の経済効率から北上工場が有力候補と見ています。海外製造拠点の設置については、建築コスト、オペレーションコスト、技術移転の期間・機会損失等も考慮して継続的に検討しますが、当面は国内製造拠点への投資の方が効率的と考えています。

Q: 昨年説明していた長期財務モデル（スルー・ザ・サイクルの営業利益率やSSDシェア）に関して、新たなサイクルでの目標水準を教えてください。

A: AI 推論向けがけん引する非常に強い需要を受け、現在当社の利益率は高い水準にあります。このため、長期財務モデルで示した目標水準から全体が底上げされて、当社の業績はより安定的に、サイクルの波によるアップダウンの幅も小さくなると予想しています。エンタープライズ SSD シェアについては、現在の10%程度から15%以上への上昇（中長期的には17%）を目指しており、ハイパースケーラー向け NAND チップのシェアを含めると、当社の NAND 市場全体でのシェアより、高いポジションを確保できると考えています。

Q: 成長投資で説明されていたインオーガニック投資については、こういった案件を想定しているのですか。

A: 本日お話ししたインオーガニック投資は、基本的には M&A を念頭に置いています。具体的な案件や計画は現時点ではございません。NAND という高いリターンが期待できる産業にあって、バリューチェーンの下流にあたる顧客との関係強化や、上流にあたる原材料や部品の調達安定化等に資する投資を実施する可能性があると考えています。

Q: 株主還元について、余剰累積フリー・キャッシュ・フローの50%という数値は、目安と捉えてよいでしょうか。

A: 50%という数値は、成長投資と株主還元の配分の考え方を説明する上で、便宜的に置いたものです。実際には、成長投資の状況やタイミング、規模によって変動すると考えており、必ず50%還元するということではございません。

注記：

- ・特に断りがない限り、記載の年度は会計年度を示します。
- ・本質疑応答集は Investor Day での質疑応答内容を要約しています。また、一部分かり易い表現等に修正しています。